

忠成日史(五)

並河正明

(会員 佐伯市常盤西町)

【解説】

豊日県境付近では相変わらず激戦が続いている。

八月十六日臨時裁判所の呼出があり薩兵に面会した三十二名の罪を免じた。

官軍人夫(守田組・後藤組・手島組)の出入りが多くなり本家楠熙三郎宅が人夫屯所となり、二六日大手前の千人小屋が大風で倒壊したため梶川家も官に借り受けられ、両家に各百人もの人夫が宿泊した。三十日には手島組人夫四千人が白杵に繰り出したとあるので、佐伯は相当数の人夫でこった返していた様子が伺える。

【本文】

八月 一日 晴

旧六月廿二日

一富沢理平殿方へ参ル。大島源内殿不快尋^たス。

一本家へ参ル。

一家僕徳蔵^{わづらい} 煩^{わづらい}二付池田村里方へ帰ル。

一日州三河内戦争之由^{のよし}。

同日 二日 晴

廿三日

一三河内戦争ノ由。

一池田村池田善次郎、同村子ヨ、同村肥川夕子^ね、同村池田長蔵^{きたる}来。

田長蔵来。

同日 三日 曇

廿四日

一家僕徳蔵^{わづらい} 煩^{わづらい}快帰宅ス。

一三河内辺戦争ノ由。

同日 四日 晴夕^{とちりあめ}通雨

廿五日

一池田善次郎母シユン来ル。

一カヅラ原・赤松谷辺戦争ノ由。

同日 五日 晴

廿六日

一小野平六殿入来。

一カヅラ原・赤松谷辺戦争由。

一木許源太夫殿入来。

八月 六日 雨午前十時雨

廿七日

一池田村富蔵来。

一カヅラ原・赤松谷辺戦争ノ由。

同日 七日 晴夕雨

廿八日

一本立村黒岩喜四郎来。

一池田村肥川仲蔵来。

一戸穴村佐伯寄留徳蔵来。

同 八日 雨

一小林組役夫三名宿ス。

同 九日 雨

一池田善次郎方へ使出シ米代ヲ持帰ス。

一人夫三名宿。

同 十日 雨

一右同断。

一東京鎮臺上陸ノ由。

同 十一日 晴、夜雨雷鳴

一人夫三名帰ル。

一守田組人夫三十名宿。

同 十二日 晴夜雨

一夫五名宿。

一古江浦ニテ石丸悌作殿方へ月本弥吉方ヲ頼、手紙出ス。

同 十三日 雨

一臨時裁判所ヨリ昨日達シ、百三十三名ノ内御用ノ都合

ニヨリ明十四日、明後十五日之内、相達ベクノ旨、

昨十三日附之回章、□□ヨリ午前九時頃到来、即刻永重ヨリ順達ス。

一人夫 宿。

八月 十五日 曇

旧ノ七月七日也

一午後九時頃用務所ヨリ呼使来ルニ付、即刻出頭之處、

明十六日午前七時臨時裁判所へ出頭スベキ旨達シア

リ。即刻引退ク。

一守田組夫 宿。

一夜分、佐藤増右衛門殿方へ参ル。

同 十六日 晴

八日

一御呼出ニ付、午前七時、臨時裁判所へ出頭。其旨書ヲ

以テ相届ケ扣へ候處、後刻三十二名一同ニテ過般、

薩兵乱入之節、面会イタシ云々之処、其罪ヲ免ルスノ

申渡有之。即刻引取ル。

一楠罷三郎殿宅、七月廿一日ヨリ夫人屯所ニ相成候處、

置数人員且日数取調書付差出呉候様、用務所ヨリ申

聞ケ候。間、即刻取調、拙者ヨリ差出ス。

一守田組夫 宿ス。

同 十七日 晴

九日

一守田組夫 宿ス。

同 十八日 晴

十日

一 守田組夫昨朝繰出シ、疾病ノ者斗宿ス六名、夕刻四名生国へ帰村ス。

同 十九日 晴

十一日

一 首藤亡甲蔵殿初盆二付、備モノス。

一 戸穴村大工勘蔵来。

一 守田組夫十七日朝繰出シ、残疾病ノ者斗宿ス。

一 楠氏へ今日ヨリ夫人六十名宿ス。

同 廿日 曇

十二日

一 守田組ノ内、疾病ノモノ二名、今朝生国へ帰村ス。

一 右二同ジ、繰出シノ者不帰。

一 夜二入、薩人降伏千六百名佐伯村へ来ル。

一 波越村小寺爲二来。

八月 廿一日 晴

旧七月十三日

一 三十小区用務所小使来ル。四月分・五月半月分、戸長

在職中給料御渡二付、受領印形イタシ相渡候。

一 薩人四千人降伏、佐伯村へ来ル之由。

一 精霊会二付、本家へ参ル。

一 清蓮院崩御十七年御祥月二付、養賢寺へ参。

同 廿二日 晴

十四日

一 木立村古田伊勢蔵妹来。

一 守田組人夫、去ル十七日繰出シ日向国古江ト申処迄、参候由。今晝 兩人輻重方へ□□□、此夜中步行、

同所ヨリ返書受取、即刻出立。

一 盆会、本家へ参ル。

同 廿三日 曇

十五日

一 守田組夫人ノモノ兩名病氣二付、帰村イタスノ旨ニテ

来ル。昨夜ハ何レニカ止宿ス。

一 首藤甲蔵亡初盆会二付、参ル。

一 十九小区守後浦地租・民費、第一期ナドノ二初納相

納メ。

一 佐藤増右衛門殿方へ参。

一 富沢潤吾殿方へ参。

一 夕刻木許源太夫殿方へ参ル。

一 家僕徳蔵事、心得違之儀有之ニ付、池田村へ帰ス。

一 村尾万吉ヨリ利金来。

一 盆会送火二付、本家へ参。

一 守田組人夫名宿ス。

一 伊東総太郎殿宅へ警視隊人夫屯ス。

同 廿四日 雨

十六日

一守田組人夫去ル十七日繰出し、今日何レモ帰ル。此節ヨリ百名宿ス。

一池田玉蔵同村仲蔵參。

八月 廿五日 雨

旧七月十七日

一守田組ノ夫百名逗留ノ處、午後九時頃白杵表へ俄二繰出し二相成候也。

同 廿六日大風雨

十八日

一拙宅官ヨリ借受二相成。十六小区津久見村百長後藤組人夫百名宿ス。

但、旧大手前千人小屋、今日之大風雨ニテ吹倒

ニ付、示談ヲ以、拙宅人夫宿ニ相貸シ候處、故障

有之、用務所 教示之上、官ヨリ借受ニ相成、□

□之人夫宿ス也。

一守田組夫長□□人來、宿料□余□金札受ル。

同 廿七日 晴

十九日

一池田村池田善次郎方へ參り荷物少々持帰ル。後藤組人夫之内、三名相頼候事、舟ハ池田村ニテ雇候事。

一後藤組人夫宿ス。

同 廿八日 晴

廿日

一午前十一時頃、後藤組人夫白杵表へ繰出し。

一午後七時頃、松原格太郎殿ヨリ郵便來。

同 廿九日 晴

廿一日

一警視隊人夫止宿ニ付、届左通。

御届

福岡縣百人長

一置四十五枚 六間

手島義生組

警視隊人夫八十五名、八月廿九日ヨリ止宿致サ

セ候。此旨御届申候也。

明治十年八月廿九日……………名 印

廿六小区 用務所 御中

一本家楠氏ニモ百名人夫宿。

八月 三十日 晴

旧七月廿二日

一手島組人夫四千名、今朝白杵表へ繰出し。

一夜、佐藤増右衛門殿入來。

同 三十一日 曇

廿三日

一手島組五十長老名、午前八時頃白杵表へ立ツ。

一同組人夫式拾名、午前十時頃病院ヨリ來ル。

九月 一日 曇、午後三時頃晴

廿四日

一手島組人夫、午後七時頃放命ニ成ル。

一夜二入、用務所へ行。

同日 二日 晴

廿五日

一手鳥組人夫、昨夜放命ニ付、出立スベキ處、給与金未

下ラズ、依テ依頼ニ付逗留、夜ニ入出立。

一用務所へ今朝、輻重方しちやうがた官員檢印受之差出ス、左之通り。

御届

一輕視隊百人長・手鳥義生組八拾五名

但、八月廿九日ヨリ九月一日迄止宿

右之通、御届候也。

明治十年九月二日

梶川成人

廿六小区 用務所 御中

小九月 三日 晴

小旧七月廿六日

一手鳥組人夫八拾五名之内、八拾名者放命ニ付、昨夜出

立、五名ハ止宿今朝出立ス。

一三十小区用務所ヨリ使来ル、月給届ク。

同日 四日 晴

廿七日

一河内三郎殿金談ニテ入来。

一石丸悌作殿入来、金談。

同日 五日 晴、午後二時頃雨

廿八日

一畑仕事、日雇五人入ル。

一狩生村和佐藏来ル。

一夜木許源大夫殿方へ参。

同日 六日 朝曇、晴 旧曆ノ七月廿九日也

一池田玉蔵・肥川喜四郎妻同道ニテ参。

同日 七日 雨 旧八月一日也

同日 八日 晴 二日

同日 九日 晴 三日

同日 十日 雨 四日

同日 十一日 曇 五日

一守後浦山本伊吉母シナ来。

一 第四大区廿五小区狩生村農

五百五十五番地

管松藏弟、管作藏

右之者、当月ヨリ旧曆十二月迄、召遣候約定ニテ

本日出頭イタシ候。

一薩兵へ随行之者、四名帰国ス。

九月 十二日 曇夕雨 旧八月六日

一池田村池田善次郎・池田弥三郎・肥川喜四郎方へ預ケ

有之雜具之内、両掛・ツヅラ・夜具・建物類持帰ル。

家内同船ニテ参ル。

同日 十三日 曇 七日

一池田玉蔵来ル。

同 十四日 晴

八日

一池田弥三郎方、一昨日男子出生二付、□□參。尤、産

衣一重・肴一 相贈候。預ケ有之雜具之内、少々持帰

ル。

同 十五日 晴

九日

一オスズ池田村へ行。

同 十六日 晴

十一日

同 十七日 晴

十二日

一波越村小寺右二来。

同 十八日 曇

十二日

同 十九日 雨

十三日

同 廿日 曇夕晴

十四日

同 廿一日 曇夕霽

十五日

一夜分船頭町ニテ水藝手品有之見物ス。
これあり

同 廿二日 晴夕雨

十六日

同 廿三日 雨

十七日

同 廿四日 曇

十八日

一池田善次郎母方シユン外唄名来。

小九月 廿五日 雨

大旧八月十九日

一満江武殿入来。

同 廿六日 晴

廿日

一灸治。
まのうじ

同 廿七日 晴

廿一日

同 廿八日 晴

廿二日

一去ル五月廿五日、薩兵襲来之節、拙家并 本家楠氏共

不残、池田村池田善次郎方へ潜居致シ居、且又荷物等度

し運び呉候間、同人方・池田弥三郎方・池田長蔵方・

肥川喜四郎方え夫々進物持參、為挨拶 本家鈴・於与祿

とも池田村へ參。
それぞれのため

同 廿九日 晴

廿三日

一守後浦山本伊吉方へ參り山本虎蔵招キ、金子返金之儀

談判之處、熟談無之ニ付、止宿ス。
これなき

同 三十日 晴

廿四日

一用向畢テ夕刻山本伊吉方出立、帰曳。
ひきかえす